

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年10月22日

【評価実施概要】

事業所番号	3890400041		
法人名	㈱ニチイのほほえみ		
事業所名	ニチイのほほえみ八幡浜		
所在地	愛媛県八幡浜市産業通4-18		(電話) 0894-29-1731
管理者	笠岡 誠		
評価機関名	特定非営利活動法人 JMACS		
所在地	松山市千舟町六丁目1-3チフネビル501		
訪問調査日	平成20年10月1日	評価確定日	平成20年10月22日

【情報提供票より】 (平成20年9月17日事業所記入)

(1)組織概要			
開設年月日	平成19年11月1日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18人
職員数	17人	常勤	13人, 非常勤 4人, 常勤換算 14.6人
(2)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)			
家賃(平均月額)	40,000円	その他の経費(月額) 利用状況により異なる	
敷金	有()円 (無)		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(80,000円) / 無	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	実費 円	昼食 実費 円
	夕食	実費 円	おやつ 実費 円
	または1日当たり 円		
(3)利用者の概要 (平成20年9月17日現在)			
利用者人数	16名	男性 5名	女性 11名
要介護1	5名	要介護2	4名
要介護3	4名	要介護4	2名
要介護5	1名	要支援2	0名
年齢	平均 81.2歳	最低 72歳	最高 94歳
(4)他に事業所として指定等を受けている事業及び加算			
指定	あり・なし	指定介護予防認知症対応型共同生活介護	
指定	あり・なし	指定認知症対応型通所介護	
届出	あり・なし	短期利用共同生活介護	
加算	あり・なし	医療連携体制加算	

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

介護相談員の方からのご意見をいただき、トイレの扉やカーテンの設置について利用者の視点に立って改善された。
 囲碁・将棋・かるた、手洗いで洗濯をされる方や趣味の盆栽や鉢植えの世話、野菜作りをされる方もある。又、病院受診の帰りにお好きなものを買って物されたり、外食の予定も立てておられた。
 共用空間内には、いろいろな場所でもハビリができるようになっている。例えば、居室から居間に来られる際に、吊るされた風船を撞く事で手を上げる動作ができるようにされていた。

【質向上への取組状況】

前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
・この1年、法人の変更等、慌ただしさもあったようであるが、現在は、職員の人員等の確保もなされ、今後は、利用者一人ひとりが「あたりまえのことをあたりまえにできるよう、支援に力を入れていきたい」と考えておられた。
今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:外部4)
・管理者は、職員もともに自己評価に取り組み、職員個々が「どのような支援に関心や興味があるか」ということがわかったと話されていた。又、「利用者の行動範囲が限られているのではないか」というような課題も明確にされた。
運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4,5,6)
・「夏祭り」や「ガーデニング」等を運営推進会議と合わせて行い、事業所でのような取組みを行っているか、ということを出席者の方に見ていただいた。
家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
・ご家族の来訪時やお電話で、意見や要望を聞くようにされている。ご家族が庭の草刈りをして下さっている。
日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
・小学校行事の案内を子供たちが届けてくれるようになっている。地域の祭り時には、獅子舞「からしし」や中学生の牛鬼が事業所に入り、利用者を楽しませてくれる。

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

.理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

.サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。

各自己評価項目について、「取組みの事実」を記入し、取組みたいに を付け、適宜その内容を記入すること。

「取組みの事実」は必ず記入すること。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名 ニチイのほほえみ八幡浜

(ユニット名) ひなた

記入者(管理者)
氏名 笠岡 誠

評価完了日 平成 20年 8月 25日

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価)		
			経営理念を基に、ホーム独自の理念を模索している。		ホーム独自の理念を策定し、地域密着の方向性を確立していく。
			(外部評価)		
			法人の経営理念を玄関に掲示し、法人の方針に基づく運営に取り組まれている。		10月中には、事業所独自の理念を作る計画となっている。「居宅サービス」に重点を置き、利用者が地域の中、又、事業所内でも「あたりまえのこと」を「あたりまえに行える支援」に向けて、理念を考えていくことを予定されていた。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価)		
			毎朝の朝礼にて唱和し、意識統一を図っている。		ホーム独自の理念策定後、同様に毎日の唱和を行っている。
			(外部評価)		
			職員間で経営理念の共有に努めておられる。		
3		家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価)		
			ホームの玄関に掲示し、来訪者にいつでも見ていただけるようにしている。また、行事を行う際に地域の方々にもお声かけをし、参加いただくことで、ご理解をいただける機会を確保している。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
4		隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 日常的な挨拶からはじまり、催し物の際にお声かけをしている。今年度の夏祭りには、近隣の方の多数の参加をいただいた。		庭や敷地を有効に利用して、入居者と近隣の方が日常的に接することの出来る場を設けたい。
5	3	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 地域交流が難しい地区ではあるが、運営推進会議に老人会代表者にお越しいただいたり、小学校行事に参加させていただいている。また、小・中学校の課外授業に協力している。 (外部評価) 小学校行事の案内を子供たちが届けてくれるようになってきている。地域の祭り時には、獅子舞「からしし」や中学生の牛鬼が事業所に入り、利用者を楽しませてくれる。		ホーム側からの積極的な働きかけに重点を置いていく。 事業所では、今後さらに地域の方との交流を深めていきたいと考えておられる。運営推進会議時、民生委員の方より、事業所の敷地内にある建物の活用について提案をいただいており、「地域と交流する場」作りという点からも検討されている。
6		事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議や行事を通して、地域の方と接する機会を確保している。		認知症高齢者に関する地域の相談窓口となれるよう、オープンな環境を整えたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 全員で取り組み、現状を見つめなおすことで、より良い環境作りをしようとしている。 (外部評価) 管理者は、職員もともに自己評価に取り組み、職員個々が「どのような支援に関心や興味があるか」ということがわかったと話されていた。又、「利用者の行動範囲が限られているのではないか」というような課題も明確にされた。この1年、法人の変更等、慌ただしさもあったようであるが、現在は、職員の人員等の確保もなされ、今後は、利用者一人ひとりが「あたりまえのことをあたりまえにできるよう、支援に力を入れていきたい」と考えておられた。		日々、自己評価を行っていくという意識を持ってケアに臨んでいきたい。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	<p>運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている</p>	(自己評価)		
			<p>構成員には書面だけでなく、実際の現状を見て感じていただき、都度、的確な助言とご協力を頂いている。会議の内容と助言は即時職員に伝え、改善を図っている。</p>		<p>今までは構成員にホームを知っていただくことを目標としていたが、今後は地域の方に知っていただくための交流策を目標として、取り組んでいきたい。</p>
			(外部評価)		
			<p>「夏祭り」や「ガーデニング」等を運営推進会議と合わせて行い、事業所でどのような取り組みを行っているか、ということを出席者の方に見ていただいた。</p>		<p>さらに、地域の方達に認知症のことや事業所の役割等の理解をいただけるよう、「認知症サポーター講座」を行うことも検討されていた。会議時、いろいろな立場の方の出席をいただき、具体的なご意見や感想をいただけるよう、すすめ方の工夫を重ねていかれることが期待される。</p>
9	6	<p>市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	(自己評価)		
			<p>八幡浜市グループホーム連絡会に積極的に参加し、また、疑問や問題を抱えた際に、相談に伺っている。</p>		
			(外部評価)		
			<p>事業所運営や支援について迷うようなときには、市の担当者の方に連絡をして、相談しながら取り組まれている。又、毎月、介護相談員の訪問を受け入れておられる。</p>		
10		<p>権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	(自己評価)		
			<p>全職員が周知できるよう、ホーム内で勉強会を開催したり、外部研修会への参加を推進しているが、十分な理解には至っていない。</p>		<p>研修会等の推進を継続し、制度に関する理解を深めていきたい。</p>
11		<p>虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	(自己評価)		
			<p>ホーム内で虐待防止の勉強会を開催しており、全員が周知している。</p>		<p>職員の介護に対するストレスや不安を解消することで、精神的な余裕が持てる様、気軽に相談できる環境を整えたい。</p>

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居前に十分な説明と、同意を得ている。また、個人を尊重した認知症介護を行うにあたって発生するリスクについても十分に説明し、理解と納得を得ている。しかし、契約に関わる職員は限られており、全職員が内容を熟知しているわけではない。		入社時に契約書の内容についての研修を行い、全職員が周知できるようにしたい。
13		運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 日常的なコミュニケーションの中で、希望や意見を伺っている。また、毎月さわやか相談員さんにおこしいただき、職員では吸い上げることのできない意見を聞いていただき、助言を頂いている。		
14	7	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) 金銭に関しては立替金制度を利用している為、毎月領収証を送付し、確認を頂いている。他に關しては、都度の電話、もしくは来訪時に相談・報告を行っている。しかし、職員の異動に関しては、推進会議での報告のみとなっており、個々への報告は出来ていない。		推進会議の中で報告をしたホームの変化や職員の異動について、ご家族様に議事録等の送付を行うなどにより、報告を行いたい。
			(外部評価) 現在、ご家族の来訪時や電話にて、健康状態や日々の生活の様子を報告されている。		今後、事業所では、ホーム便りの作成を計画されている。事業所全体での取り組みや日々の生活の様子等、遠方にお住まいのご家族の方にも、事業所全体の様子がよくわかるような報告を継続して行ってほしい。
15	8	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 入居時に意見・苦情の窓口を数箇所提示し、ご利用いただけるよう、案内している。来訪時や電話での対話時にご意見を下さるご家族様もおられるが、一部の方に限られているように感じる。		どなたも気兼ねなく意見、不満を発することが出来るよう、行事等の場において、個々にコミュニケーションを取り、関係構築を図りたい。
			(外部評価) ご家族の来訪時やお電話で、意見や要望を聞くようにされている。ご家族が庭の草刈りをしてくださっている。		さらに、「お世話になっているのでこれ以上望んでは気の毒」というようなご家族の心情も踏まえ、ご家族が具体的に意見を出せるよう、働きかけや機会作りについても工夫を重ねていかれてほしい。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月定期の会議にて、意見提案の機会を確保している。しかし、運営側(法人)との意見交換の場が設けられていない。		
17		柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 慢性的なマンパワーの不足が生じているが、利用者・家族の都合や希望に添えるよう、可能な限りの調整を行っている。		人材確保に尽力しており、余裕を持って採用していく。
18	9	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 職員の異動は必要最小限に抑えているが、離職での異動は避けられない状況にある。しかし、低賃金での離職を防ぐ為、キャリアアップ制度を設け、職員のスキルに合わせ、賃金アップを行っている。		
			(外部評価) 法人の変更があったが、職員は、継続した支援に取り組まれている。職員の離職がある場合には、他の職員がカバーして利用者のダメージを抑えられるよう努めておられる。		
5. 人材の育成と支援					
19	10	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 職員は入社時や職制の変化に合わせて、社内研修を受講している。また、社外研修についても積極的に情報提供を行っている。しかし、社外研修には規定があり、積極的に受講費等の支援を行っているわけではない。		職員個人のスキルを上げることが、ケアサービスの質を向上させるということを前提に、受講費等の積極的な支援を希望している。
			(外部評価) 職員が集まり、話し合うような機会が作られており、職員間でケアについて意見交換を行われたり、勉強会をされている。又、管理者は、利用者とのかわりが「狎れあいになっていないか」話すような機会にされている。		現在、外部研修の受講を希望されている職員も多く、又、自主的に研修を受けている介護に熱意のある職員も多くおられる。法人も含めて、事業所のさらなるケアの質の向上に向けて、職員個々がスキルアップできるような仕組み作りも期待される。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
20	11	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価)			
			八幡浜市連絡会を通して、同業者との意見交換、交流を図っている。また、近隣のGHとは、互いに運営推進会議の構成員となり、行事などにも参加いただいているため、十分に交流が出来ている。			
			(外部評価)			
			市内グループホーム事業所が集まる連絡会があり、市全体で質を高めていく取り組みに参加されている。運営推進会議時や行事等には、近くのグループホームと相互に参加し合っておられる。		さらに、今後、連絡会時には、職員も参加していきたいと考えておられた。	
21		職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価)			
			運営者との相談・連絡は電話が中心となっているが、環境改善への理解と協力体制は整っている。			来訪機会が非常に限られている為、現状を目視することが出来ていない。来訪頻度をあげ、職員の意見の吸い上げを希望している。
22		向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価)			
			一律賃金だった体制を払拭し、キャリアアップ制度を導入した。個人のスキルや勤務状況により、定期評価による昇給が可能となり、各自の意識向上を図っている。			昇給評価面談の際に、各自に課題と目標を設定してもらっており、継続して、常に目標を意識できる環境を整えたい。
<p>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</p> <p>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>						
23		初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価)			
			アセスメントの際に必ずご本人にお会いし、対話する機会を設けている。また可能な場合はホームにお越しいただき、多くの職員の顔を見ていただき、入居時の混乱を最小限に抑えるようにしている。			

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
24		初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 最初の相談があったときに出来るだけ時間の制限がないよう配慮し、じっくりとお話を伺うようにしている。		
25		初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人の希望、家族の希望、生活状況を踏まえ、現在必要なサービスと利用できるサービスを、出来るだけ多く提示している。その際にホームで出来ること、出来ないことを明確にお伝えしている。		
26	12	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 入居者本人が納得して入居するケースは非常に少なく、家族の希望での入居が大半を占めている。その中で、少しでも入居時の不安をなくすため、入居前に内覧をしていただき、多くの職員と顔を合わせていただくようにしている。 (外部評価) 入居間もない利用者に対し、職員は、方言や地元の話題を交えてゆっくりとお話をされ、関係作りに努めておられる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) ホームの中では職員も含め、皆家族であるという気持ちを大切にしている。入居者の得意とされている事に関しては、職員が入居者に教えていただくということも多くあり、支え合いの相互関係を大切にしている。 (外部評価) 職員や利用者から畑の作り方を教えていただいている。囲碁や将棋を利用者に教えていただくこともある。		介護する側、される側という関係性が見られる場面も多い為、日常のコミュニケーションを通して、改善していきたい。 職員は今後、さらに、利用者に食事作りや畑作り等、いろいろなことを教わりながら一緒に行い、活発な事業所作りに取り組みたいと話しておられた。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 日常的な報告等を通して、相談を持ちかけ、一緒に入居者の生活を支えていくよう、働きかけている。		
29		本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 入居前アセスメント、入居後のコミュニケーションを通して、家族関係を把握し、疎遠になることのないよう、サポートしている。		遠方のご家族でなかなか面会に来る事が出来ない方に、日常生活や出来事の報告を随時行い、安心いただけるような工夫をしていきたい。
30		馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	(自己評価) 面会時間を設定せず、いつでも馴染みの方が来られるような環境を作っている。また、希望される外出は可能な限り同行させていただき、叶えられるようにしている。		スタッフ不足により、希望されたその時に外出していただくことが出来ないことがある。人材確保により、入居者の希望をその都度叶えられるようにしたい。
31		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) ユニット間を越えて、入居者同士の交流が持てるよう、日常的に支援している。また、入居者間の問題が生じたとき、または生じそうなときはスタッフが間に入り、円滑な交流がもてるよう、支援している。		
32		関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 退去後に元入居者がホームに遊びに来られることがあり、常にオープンな環境作りに取り組んでいる。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
33	14	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価)		
			アセスメントにセンター方式を利用しており、希望や意向を尊重できるよう努めている。また、意思表示の困難な方の場合は、家族からの聞き取りを十分に行い、意志を代弁していただくようにしている。		ホームでの集団生活の中で、希望や意志に添えないことが多い為、個別に当たり前の生活を維持していただけるように改善していきたい。
			(外部評価)		
			利用者がお部屋で過ごされる時や散歩時等、1対1になる時に、ご本人の思いを聞けることが多い。		現在、センター方式のアセスメント表を用いて、利用者個々について情報収集を行っている途中である。事業所では、個別で細やかなケアを目指しておられ、全職員でご本人の思いや事業所での暮らし方の希望の把握に、努めていかれてほしい。
34		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価)		
			本人・家族・担当ケアマネージャーなど、今までの生活で関わってきた方から、入居前にお話を伺うようにしている。また、可能な場合はご自宅に訪問させていただき、ご自宅での生活状況を確認させて頂いている。		
35		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価)		
			センター方式の活用により、多方面からの視点で把握するようにしている。		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	(自己評価)		
			ユニット会議、カンファレンスを通してスタッフ同士の意見交換を行い、家族には来訪時や電話などで意見を伺っている。また、受診時にケアマネージャーが同行し、医療機関等の意見も伺うようにしている。		
			(外部評価)		
			介護計画書は、ご家族も分かりやすいような言葉を使うよう心掛けておられる。ご家族の来訪時等に計画について説明を行い、意見をいただけるよう働きかけられる。		現在、ご家族から意見が出されることは少ないようである。さらに、ご家族も具体的に意見を出せるような働きかけ等、工夫を重ねていかれてほしい。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
37	16	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価)		
			定期的な見直しに加え、カンファレンスやユニット会議での意見交換時に変化を捉え、必要に応じて見直しを行っている。また、日常的に計画作成担当者に状態の変化などの報告を行い、見直しの時期を検討している。		
			(外部評価)		
			毎月、カンファレンスを行い、介護計画の内容について職員で評価し、記録されている。		
38		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価)		
			記録が定型的なものにならないよう、個人の会話や行動を明確に記録し、記録を見ることで人物や様子がわかるように取り組んでいる。		ケアプランに沿った介護記録には不十分である為、カンファレンス等でプランの活かし方を学んでいきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価)		
			ご家族の宿泊や急な外出等にも柔軟に対応している。また、希望に応じて通院や外出の同行支援を行っている。		
			(外部評価)		
			遠くにお住まいのご家族が事業所に宿泊されることもある。ご自宅に盆栽を取りに行かれることもある。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 運営推進会議を通して、各機関への協力を仰いでいる。月に1度、さわやか相談員様に来訪いただき、さまざまなアドバイスを頂いている。また、必要に応じて行政機関への相談を行っている。		
41		他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 入居時、退去時をはじめ、入居中にも必要と思われる際に相談、支援依頼を行っている。		
42		地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 地域包括支援センターとは入居相談での関わりのみとなり、ケアマネジメントでの相談等は行っていない。		
43	18	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 本人・家族が希望した医療機関を主治医とし、受診・往診を行っている。受診の際は職員が同行し、日常的な状態の報告等を主治医に行っている。 (外部評価) 病院受診時は職員が同行されている。		
44		認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 主治医と相談の基、必要と判断された場合は専門機関に受診できるよう、支援している。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
45		看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 提携医、及び各入居者かかりつけ医看護師と密に連絡を取り、相談を行っている。		看護師をホーム内に配置していない為、外部機関からの支援体制に頼っている。今後も看護師の配置は難しく、現状維持が見込まれる。
46		早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 入院した場合、必ず職員がお見舞いに行き、管理者、ユニットリーダーが病院関係者と情報交換を行うようにしている。入院中も可能な限りの支援を家族、本人に行っている。		
47	19	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 重度化した場合は、通院時に家族の同行を依頼し、医療機関、ホーム、本人(家族)の3者で方針を検討している。在宅医療(通院)で対応できる限り、ホームでの生活を希望されている方もあり、本人・家族との十分な信頼関係と連携を図っている。		家族の負担を最小限に抑えた支援方法を模索し、本人・家族の希望に添えるよう、努めていく。
			(外部評価) 常時の医療行為が必要になった場合は病院に任せるということを、ご家族に説明されている。		重度化した時のことや終末期のことは、ご本人ご家族も不安なことでもあることを踏まえ、意向等を話し合うような機会を作る等、早い段階から話し合いを繰り返していかれることが期待される。
48		重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 入居契約の際に、ホームとしてできること・できないことをご説明し、同意を頂いている。病状の悪化に伴い、介護職としての対応枠を越えた場合は、提携医・主治医と連携できるよう、日々の関わりをしている。		
49		住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 住み替え時に関わる関係者とは積極的に情報交換を行い、本人・家族の負担を軽減するよう、努めている。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価)		
			個々に合わせた対応を心がけており、職員間の情報交換により、よりよい対応方法を模索している。		長く入居者と関わることで、「慣れ」と「狎れ」の区別が難しくなることがある。さわやか相談員様からご指摘をいただくことがあり、その都度真摯に受け止め、改善を図りたい。
			(外部評価)		
			介護相談員の方からのご意見をいただき、トイレの扉やカーテンの設置について利用者の視点に立って改善された。		
51		利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価)		
			物事を決める時は、できる限り入居者に決めていただけるようにしている。しかし、希望に添えない場合の説明の理解は難しいことが多く、納得に繋がっていないかどうかわからない。		希望を表現できない方の意向を、生活歴などから家族に代弁していただき、叶えていきたい。
52	21	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価)		
			食事、入浴以外の日々のタイムスケジュールは設定せず、個々が自由に生活できるように配慮している。しかしホーム内での自由な生活は確保できているが、外出には職員数の不足により、個々に合わせた対応はできていない。		ゆとりを持って、個々の希望に沿うことが出来るよう、職員の確保を早期に行いたい。
			(外部評価)		
			これまで職員の人員のこともあり、利用者の希望での外出等、難しい面もあった。		事業所では、「ご本人のその時の思いを支える」ことを目指しておられる。今後は、事業所外の活動等、利用者の生活の広がりも支援していきたいと考えておられた。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 本人が希望する場合は、その店に同行支援している。車椅子の入居者で店舗での対応が難しい方は、出張美容を利用し、定期的に理・美容を行っている。		
54	22	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 予め好みや希望を確認し、食事中にも対話の中で、感想・意見を聞いている。食事の準備・片付けも女性入居者と一緒に行っている。 (外部評価) 現在、朝食・昼食・夕食ともに食材の宅配を使用されている。畑の野菜を使ったり、パンや牛乳を買いに出かけることもある。調査訪問時、昼食後に食器拭きをされている利用者の様子がうかがえた。		月に1度の外食日を設定し、さまざまな店をまわって楽しむ機会を確保したい。 事業所では、今後、食事作り等に利用者がかかわれるよう支援していきたいと考えておられる。又、ご家族も食事に関しては気になる点でもあり、時に、ご家族も事業所で食事をとものして、食事の内容や様子について、具体的に意見を出せるような機会を作ってみてはどうだろうか。
55		本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 本人が希望し、医療機関の許可が出た方は、嗜好を楽しむことが出来る様、支援しているが、現在はDrストップがかかっている方のみであり、実施していない。		
56		気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 個別に排泄パターンを把握し、定期誘導することでオムツの使用頻度を最小限にとどめている。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	23	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 毎日入浴していただくことを基本とし、入る時間などを個別に都度確認している。体調不良などで入浴ができない日は清拭を行い、清潔を保持している。		
			(外部評価) 利用者の体調を見ながら入浴をすすめておられる。ご自分のシャンプーや洗面器を用意されている方もいる。入浴剤を入れることもある。		
58		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 車椅子の入居者が座りっぱなしにならないよう、定期的に声をかけ、座っておくのか、横になるのか、本人の意思の確認を行っている。生活の中心は個人であり、行動決定も入居者個人にさせていただきよう、支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 外出や家事全般、レクリエーションなどに力を入れており、その中で個々の力を発揮してもらうように支援している。		外出に公共機関を使用することがなかった為、バスなどを利用して外出していきたい。
			(外部評価) 囲碁・将棋・かるた、手洗いで洗濯をされる方や趣味の盆栽や鉢植えの世話、野菜作りをされる方もいる。又、病院受診の帰りにお好きなものを買っていただき、外食の予定も立てておられた。		事業所では、今後、利用者個々の興味のあることを探っていきたいと考えておられる。利用者個々が意欲や自信を持って暮らすことができるような支援について、積極的に取り組みをすすめてほしい。
60		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居中は金銭を所持していただくが、立替金制度を使用している為、金銭の管理は行っていない。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
61	25	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価)		
			職員と同行して買物に出かけたりと、可能な限り支援を行っている。		職員数を確保することで、少しでも希望に添えるようにしたい。
			(外部評価)		
			事業所のまわりを散歩されたり、買い物、病院受診等、出かけておられる。		事業所では今後、月に1回、計画を立てて外出することを予定されていた。又、庭の活用等、皆が戸外に出て楽しむことができるよう、取り組まれてはどうか。
62		普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価)		
			外出行事として花見やそうめん流しなどに出かけている。		
63		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価)		
			本人の希望を最優先とし、電話もいつでも利用できるようにしている。また、手紙を書かれたときは一緒にポストまで出しに行っている。		意思決定や表示が難しい入居者に、手紙の作成や電話を促し、家族や知人との関わりを絶つことのないよう、支援したい。
64		家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価)		
			面会時間を設定せず、いつでも馴染みの方が来られるような環境を作っている。また宿泊もできるよう、和室に貸寝具を用意している。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束は行わないことを前提に、勉強会等で学んでいる。		拘束をせず、安全を確保できる介護方法を常に学び、実践していく。
66	26	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 夜間以外は常に玄関の鍵は開いており、居室の鍵は中から本人が施錠することのみ使用している。身体拘束と同様、勉強会等で大切さを学んでいる。 (外部評価) 玄関はかぎを掛けておられない。共用空間からテラスに出られるようになっている。		今後、地域の方達との関係作りから、利用者を地域でも見守っていただけるよう、取り組みをすすめていきたいと考えておられた。
67		利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 職員は常に入居者の所在を把握し、玄関から出られる際には必ず声をかけている。また、行動制限を掛けないようにする為、該当ユニットの職員だけではなく、ホーム全体として入居者の行動を把握するように努めている。		
68		注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 危険の生じる物は原則として鍵のかかる所で保管している。しかし、本人の希望でハサミなどを居室に置く場合は、先端の尖っていない物にするなど、危険を回避している。		
69		事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) リスクマネジメントについて、入社時の研修で学び、事故が発生した場合は、速やかに報告書を作成し、全職員に周知、再発防止を促している。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) マニュアルの作成に加え、定期的に普通応急救命講習を受講している。		
71	27	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 避難訓練により、避難方法と場所・通報方法の確認を行っている。 (外部評価) 年2回の避難訓練を行っておられ、自主訓練時には、日中、地震や火災が発生したことを想定して訓練が行われた。近くのグループホームの避難訓練に参加され、訓練の大切さを感じられた。		夜間帯の避難方法と連携が十分とはいえないため、定期的な訓練により、よりよい方法を身につけたい。 10月中旬に消防署の協力を得て 夜間を想定して2階から避難する訓練を行うことを予定されている。すべての利用者・職員が安全に避難できるような対策への取り組みを重ねていかれてほしい。又、ご家族の安心のためにも、取り組みについてお知らせや報告をされてはどうだろうか。
72		リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	(自己評価) 抑制のない生活をする為に発生しうるリスクについて、入居前にご説明し、了承を得ている。また予測し得ないリスクが発生した場合はその都度、報告・相談を行っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 定期的なバイタルチェックにて異変の早期発見に努め、気づいた際にはすぐに他職員・医療機関と連携をとり、対応している。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
74		服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 処方された薬について、通院同行した職員が書面にて他職員に伝達し、また、いつでも薬の詳細が確認できるよう、個人ファイルに綴じている。		
75		便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 毎日の排便チェックを行っており、便秘が続く場合は医療機関との相談をしている。日常的にも便秘予防のため、歩く機会を確保するよう努めている。		
76		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 毎食後の口腔清掃を勧めており、口腔内の異常があった場合は、医療機関への相談・受診を行っている。		口腔ケアがまだ習慣付いていない為、工夫していきたい。
77	28	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事は外部業者から食材を納品しており、栄養士管理のメニューを提供している。水分は好みのばらつきがあるため、数種類を用意し、希望のものを飲んで頂いている。 (外部評価) 食事制限のある方には、調整された食材が届くようになっている。調査訪問時、職員は、利用者に水分の大切さを伝え、お茶をすすめておられた。		
78		感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	(自己評価) マニュアルと薬剤の取扱い方法を整備しており、勉強会を通して職員の理解を深めている。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
79		<p>食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>マニュアルに基づき、食器の消毒方法などを徹底している。また、時期により生ものの提供を禁止している。</p>		
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p> <p>(1)居心地のよい環境づくり</p>					
80		<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>玄関まではスロープになっており、手すりも設置しているため、高齢者も安心してお越しいただけるようにしている。また、周辺に緑を設け、柔らかい雰囲気を作っている。</p>		
81	29	<p>居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>季節に応じた掲示物（インテリア）にしており、入居者が作製した物を展示している。視覚的なことだけでなく、匂いにも注意し、快適に過ごせるよう配慮している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>共用空間内には、いろいろな場所でリハビリができるようになっている。例えば、居室から居間に来られる際に、吊るされた風船を撞く事で手を上げる動作ができるようにされていた。</p>		
82		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>リビングに段差のある和室を用意しており、腰を掛けて談話できるようにしている。また、廊下に長いすを置いており、気の合う入居者同士で対話することができる。</p>		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	30	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価)		
			居室内の家具は全て自宅から持込をして頂いており、使い慣れた愛着のあるものになっている。インテリアも自由にさせていただき、花を飾ったり、写真を貼ったりと個性を出されている。		
			(外部評価)		
			趣味の写真を飾っておられる居室がうかがえた。又、仏壇や使い慣れた椅子、テレビを持ち込まれている居室もうかがえた。		さらに、職員は、利用者個々が事業所を「ご自宅のように思ってもらいたい」と願っておられる。さらに、ご本人の希望や習慣等も探りながら、居室の環境作り等の工夫を重ね、ご本人らしい暮らしを支援できるよう、取組みをすすめていかれてほしい。
84		換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価)		
			定期的な空気入れ替えを行い、外気温との差が大きくなるよう配慮した温度調節を行っている。温度調節の際は入居者に寒暖を伺うようにしている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価)		
			バリアフリー構造、手すりの設置など、転倒を防ぐことができるよう配慮している。また、車椅子の方でも自由に行動できるような広さ、設備を設けている。		
86		わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価)		
			ドアには表札、個々に違う暖簾、トイレにはマークをつけるなど、混乱を最小限に防ぐ事ができるよう配慮している。		
87		建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんで、活動できるように活かしている	(自己評価)		
			晴れの日にはウッドデッキに椅子を出し、日向ぼっこをしたり、庭の野菜の手入れをしたりと活用している。		ホーム裏庭が未使用スペースとなっている為、入居者の憩いの場所として活用できるよう、工夫したい。

. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	判断した具体的根拠
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (自己評価) ③ 利用者の1/3くらいの	自己表現ができる入居者の意向はつかむことができるが、自己表現の難しい入居者の本当の意向を汲み取ることが不十分と思われる。
89	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (自己評価) ① 毎日ある	日常的に入居者はリビングに集まっており、そこで職員と対話やレクリエーションをして一日過ごされている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が	タイムスケジュールがない為、個々が自分のペースで生活している。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (自己評価) ② 利用者の2/3くらいが	家事や外出の際に力を発揮され、生き生きとされていることが多い。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (自己評価) ③ 利用者の1/3くらいが	行きたいところの意思表示があまりないが、職員が提案すると喜ばれ、外出される。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (自己評価) ② 利用者の2/3くらいが	医療機関との連携は十分に行っているが、看護師の配置がない為、緊急時の対応に不安がある。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (自己評価) ② 利用者の2/3くらいが	個人との関わりを十分に取っている為、早期に希望にこたえることができている。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (自己評価) ② 家族の2/3くらいと	ご家族との連絡は密に行っており、都度要望などを伺っている。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (自己評価) ③ たまに	入居者の家族や知人は頻りに訪問されているが、地域の方の訪問は限られている。

項 目	取 り 組 み の 成 果 (該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こと)	判 断 し た 具 体 的 根 拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (自己評価) ② ② ③ ④	推進会議を開けたものにしていくことで、少しずつ地域の方の理解を頂くことができているように感じる。
98	職員は、生き活きと働けている (自己評価) ② ③ ④	認知症高齢者の介護方法や、人間関係で悩みをもっている職員がいる。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う (自己評価) ③ ④	自宅での生活とは違い、さまざまな制限を受けていることは確かな為、満足している方は限られているように感じられる。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う (自己評価) ③ ④	入居者が満足されることが、家族の満足に繋がっていると思う。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
 (この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

認知症高齢者という括りでもなく、グループホームの入居者という括りでもなく、さんという個人で生活されているということを念頭に置き、個人と向き合った介護を行いたいと思っています。